

16. 物のしまい忘れや物をなくすことがありますか

1. はい      2. いいえ

17. 以前興味があったことに関心が薄くなってきましたか

1. はい      2. いいえ

D 日常生活についておうかがいします

1. 生活習慣について気をつけていることに○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1. 適度な睡眠をとる        | 2. 朝食をとる     |
| 3. 間食やおやつをとりすぎない   | 4. 塩分をとりすぎない |
| 5. お酒を飲みすぎない       | 6. たばこを吸わない  |
| 7. 定期的な運動（散歩など）をする | 8. 適正な体重を保つ  |
| 9. 栄養のバランスを考えて食べる  |              |

2. 規則正しい生活をしていますか

1. 規則正しい    2. ほぼ規則正しい    3. あまり規則正しくない    4. 不規則

3. 食べ物の固さではどのくらいのものが噛めますか

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| 1. なんでもかめる | 2. たいていのものはかめる    |
| 3. あまりかめない | 4. ほとんど又はまったくかめない |

4. 日常生活の自立の程度についてそれぞれあてはまるものに○をつけてください

- |                                  |            |          |
|----------------------------------|------------|----------|
| 1. 食事                            | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 2. 着替え                           | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 3. 入浴                            | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 4. 移動動作（布団やベッドの昇降、いすへの着席、起き上がり）  | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 5. 歩行                            | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 6. トイレに行く（トイレへの移動、排泄、後始末、衣類をただす） | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 7. 大小便を失敗することがありますか              | 1. ある      | 2. ない    |

5. 外出頻度についてあてはまるものに○をつけてください

1. 毎日1回以上                      2. 2～3日に1回程度  
3. 1週間に1回程度                4. ほとんど外出しない

6. 外出範囲についてあてはまるものに○をつけてください

1. ほとんど家の中                      2. 自宅の敷地内                      3. 隣近所  
4. 徒歩で行ける範囲                5. 乗り物を利用して行く場所

7. 家の中に段差等不便な場所があり行動が制限されますか

1. はい    2. いいえ

8. 家から出るときに段差等があり、外出が制限されますか

1. はい    2. いいえ

9. 同居のご家族との付き合いの程度についてあてはまるものに○をつけてください

1. よく話す                              2. ときどき話す  
3. ほとんど話をする事もない        4. 同居の家族はいない

10. 別居の親戚や兄弟姉妹との付き合いの程度についてあてはまるものに○をつけてください

1. よく話す                              2. ときどき話す  
3. ほとんど話をする事もない        4. 別居の親戚や兄弟姉妹はいない

11. 友人・知人との付き合いの頻度についてあてはまるものに○をつけてください

1. 毎日              2. 週1～2回              3. 月1～2回              4. 月1回未満

12. 近所付き合いについてあてはまるものに○をつけてください

1. 困ったときにお互い相談したり助け合ったりする  
2. 気軽に行き来する                      3. ときどき世間話する  
4. 会えば挨拶する程度                      5. ほとんど付き合いはない

13. 家庭内での役割（家事、孫の世話、家計の管理など）をおもちですか

1. はい              2. いいえ

14. 地域での役割（自治会・老人会の役員、ボランティアなど）をおもちですか

1. はい              2. いいえ

15. 地域での活動（自治会・老人会の年行事、おまつりなど）に参加していますか

1. はい              2. いいえ

16. 趣味はおもちですか。おもちの場合その内容をご記入ください

1. はい ( )                      2. いいえ

17. 生きがいをおもちですか。おもちの場合その内容をご記入ください

1. はい ( )                      2. いいえ

E お気持ちについておうかがいします。以下の質問について「はい」か「いいえ」のどちらかに○をつけてください

1. 毎日の生活に満足していますか

1. はい            2. いいえ

2. 毎日が退屈だと思ふことが多いですか

1. はい            2. いいえ

3. 外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思ひますか

1. はい            2. いいえ

4. 生きていても仕方がないと思ふ気持ちになることがありますか

1. はい            2. いいえ

5. 自分が無力だと思ふことが多いですか

1. はい            2. いいえ

F 保健福祉サービスについておうかがいします

1. 健康診査はどのくらいの間隔で受けられていますか。あてはまるものに○をつけてください

1. 毎年                      2. 2～3年に1回程度                      3. まったく受診しない

2. 介護保険サービスの内容についてどの程度ご存知ですか

1. よく知っている                      2. まあまあ知っている  
3. ほとんど知らない                      4. まったく知らない

3. 現在、利用している「介護保険サービス」についてあてはまるものに○をつけてください《あてはまるものすべてに○》

1. 訪問介護（ホームヘルプサービス）
2. 訪問入浴介護
3. 訪問看護
4. 訪問リハビリテーション
5. 通所介護（デイサービス）
6. 通所リハビリテーション（デイケア）
7. ベッドのレンタル
8. 車椅子（電動含む）のレンタル
9. その他（ ）のレンタル
10. 短期入所生活（療養）介護（ショートステイ）
11. ポータブルトイレの購入
12. 入浴関連用具の購入（シャワーベンチなど）
13. その他（ ）の購入
14. 住宅改修（手すり、段差の解消など）
15. 有料老人ホーム
16. グループホーム
17. 特別養護老人ホーム
18. 老人保健施設
19. 介護療養型医療施設
20. 全く知らなかったので利用していない
21. 必要性がないので利用していない

4. その他の利用しているサービスについてあてはまるものに○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

—各市町村独自の名称にて調査—

5. あればいいと思うサービスについてあてはまるものに○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

—各市町村独自の名称にて調査—

6. ○○市町村の保健福祉サービスへのご意見等ございましたらご記入ください

最後までご回答いただきありがとうございました

1 年後用

平成 16 年 月～ 月の

介護保険の要介護認定「要介護 1」認定者のみなさまへ  
アンケートのお願い

初秋の候、皆様におかれましてはご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年は、「介護保険の要介護認定「要支援」・「要介護 1」認定者のみなさまへ」のアンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。お礼申し上げます。1 年が経過し、今年もアンケートにご協力していただきました方にひきつづき健康や日常生活の様子についてのアンケート調査をさせていただきたいと思っております。現在の皆様の健康や日常生活の様子を伺い、現在と 1 年前の同様のアンケートと分析することによってよりよい健康状態を保っていくためにどのような保健福祉サービスが必要かを検討し、〇〇市町村における保健福祉サービスの充実のために役立てていきたいと考えております。介護保険制度が一部改正され、平成 18 年 4 月から現行の「要支援」認定者及び「要介護 1」認定者の一部の方が新予防給付の対象となります。あわせて新予防給付の充実のために役立てていきたいと考えております。

なお、ご記入いただいた内容は目的以外には使用いたしません。また、ご回答の有無によって皆様に不利益が生じることはありません。健康や日常生活の 1 年前と現在の変化を教えていただくためにアンケート用紙に番号をつけておりますが、プライバシーの保護を優先し、お答えいただきました内容は全体として集計いたしますので個人的な資料がでることは決してありませんのでご安心してご記入ください。アンケート用紙は 2 枚で表と裏に印刷してあります。およそ 10 分程度で終わりますのでご協力くださいますようお願いいたします。同封の返信用封筒にて 月 日までにご返送いただきますようお願い致します。

(なお、本調査の集計、分析は、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、大阪府立大学看護学部にて依頼して実施いたします。)

〇〇市町村〇〇部介護保険主管課  
担当 〇〇、〇〇  
連絡先

I D 番号

# アンケート用紙

**\* 回答のしかた \***

- ・ 質問項目では、原則として答えの中であなたのお考えに一番近いもの1つ選んで番号に○をつけてください。
- ・ 《あてはまるものすべてに○》 となっている項目では、あてはまるものすべてに○をつけてください。

**A あなたご自身についておうかがいします**

1. あなたの年齢 \_\_\_\_\_ 歳（記入時の年齢）
2. あなたの性別 1. 男性 2. 女性
3. 家族構成についてあてはまるものに○をつけてください  
1. ひとり暮らし 2. 夫婦ふたり 3. 子どもやその家族との同居  
4. 子どもと孫やそれらの家族との同居 5. 有料老人ホーム、グループホーム等に入居  
6. その他（ ）
4. ○○市町村に住まれて何年目になりますか \_\_\_\_\_ 年目

**B 健康についておうかがいします**

1. ご自分の健康についてあてはまるものに○をつけてください  
1. 非常に健康 2. まあ健康  
3. あまり健康ではない 4. 健康ではない
2. 現在治療中の病気はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください  
1. 高血圧 2. 心臓病 3. 脳出血や脳梗塞 4. 糖尿病  
5. 関節痛や神経痛 6. 骨折 7. 眼の病気 8. 腰痛や腰部の病気  
9. 骨粗しょう症 10. うつ病 11. その他（ ） 12. なし
3. 過去1年間に転んだ経験はありますか  
1. はい 2. いいえ
4. 過去1年間に入院経験はありますか。ある場合、病名と入院期間をご記入ください  
1. あり（病名 \_\_\_\_\_）  
期間（ ）年（ ）か月（ ）日  
2. なし

**C 生活動作についておうかがいします。以下の質問について「はい」か「いいえ」のどちらかに○をつけてください**

1. バスや電車を使って一人で外出できますか  
1. はい      2. いいえ
2. 日用品の買い物ができますか  
1. はい      2. いいえ
3. 自分で食事の用意ができますか  
1. はい      2. いいえ
4. 請求書の支払いができますか  
1. はい      2. いいえ
5. 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか  
1. はい      2. いいえ
6. 年金などの書類が書けますか  
1. はい      2. いいえ
7. 新聞を読んでいますか  
1. はい      2. いいえ
8. 本や雑誌を読んでいますか  
1. はい      2. いいえ
9. 健康についての記事や番組に興味がありますか  
1. はい      2. いいえ
10. 友だちの家を訪ねることがありますか  
1. はい      2. いいえ
11. 家族や友だちの相談にのることがありますか  
1. はい      2. いいえ
12. 病人を見舞うことができますか  
1. はい      2. いいえ
13. 若い人に自分から話しかけることがありますか  
1. はい      2. いいえ
14. 同じことを何度もたずねることがありますか  
1. はい      2. いいえ
15. 物の名前がでてこないことがありますか  
1. はい      2. いいえ



16. 物のしまい忘れや物をなくすことがありますか

1. はい      2. いいえ

17. 以前興味があったことに関心が薄くなってきましたか

1. はい      2. いいえ

D 日常生活についておうかがいします

1. 生活習慣について気をつけていることに○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1. 適度な睡眠をとる        | 2. 朝食をとる     |
| 3. 間食やおやつをとりすぎない   | 4. 塩分をとりすぎない |
| 5. お酒を飲みすぎない       | 6. たばこを吸わない  |
| 7. 定期的な運動（散歩など）をする | 8. 適正な体重を保つ  |
| 9. 栄養のバランスを考えて食べる  |              |

2. 規則正しい生活をしていますか

1. 規則正しい    2. ほぼ規則正しい    3. あまり規則正しくない    4. 不規則

3. 食べ物の固さではどのくらいのものが噛めますか

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| 1. なんでもかめる | 2. たいていのものはかめる    |
| 3. あまりかめない | 4. ほとんど又はまったくかめない |

4. 日常生活の自立の程度についてそれぞれあてはまるものに○をつけてください

- |                                  |            |          |
|----------------------------------|------------|----------|
| 1. 食事                            | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 2. 着替え                           | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 3. 入浴                            | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 4. 移動動作（布団やベッドの昇降、いすへの着席、起き上がり）  | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 5. 歩行                            | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 6. トイレに行く（トイレへの移動、排泄、後始末、衣類をたたく） | 1. ひとりでできる | 2. 介助が必要 |
| 7. 大小便を失敗することがありますか              | 1. ある      | 2. ない    |

5. 外出頻度についてあてはまるものに○をつけてください

1. 毎日1回以上                      2. 2～3日に1回程度  
3. 1週間に1回程度                4. ほとんど外出しない

6. 外出範囲についてあてはまるものに○をつけてください

1. ほとんど家の中                      2. 自宅の敷地内                      3. 隣近所  
4. 徒歩で行ける範囲                5. 乗り物を利用して行く場所

7. 家の中に段差等不便な場所があり行動が制限されますか

1. はい    2. いいえ

8. 家から出るときに段差等があり、外出が制限されますか

1. はい    2. いいえ

9. 同居のご家族との付き合いの程度についてあてはまるものに○をつけてください

1. よく話す                              2. ときどき話す  
3. ほとんど話をすることもない      4. 同居の家族はいない

10. 別居の親戚や兄弟姉妹との付き合いの程度についてあてはまるものに○をつけてください

1. よく話す                              2. ときどき話す  
3. ほとんど話をすることもない      4. 別居の親戚や兄弟姉妹はいない

11. 友人・知人との付き合いの頻度についてあてはまるものに○をつけてください

1. 毎日              2. 週1～2回              3. 月1～2回              4. 月1回未満

12. 近所付き合いについてあてはまるものに○をつけてください

1. 困ったときにお互い相談したり助け合ったりする  
2. 気軽に行き来する                      3. ときどき世間話する  
4. 会えば挨拶する程度                      5. ほとんど付き合いはない

13. 家庭内での役割（家事、孫の世話、家計の管理など）をおもちですか

1. はい    2. いいえ

14. 地域での役割（自治会・老人会の役員、ボランティアなど）をおもちですか

1. はい    2. いいえ

15. 地域での活動（自治会・老人会の年行事、おまつりなど）に参加していますか

1. はい    2. いいえ

16. 趣味はおもちですか。おもちの場合その内容をご記入ください

1. はい ( )                      2. いいえ

17. 生きがいをおもちですか。おもちの場合その内容をご記入ください

1. はい ( )                      2. いいえ

E お気持ちについておうかがいします。以下の質問について「はい」か「いいえ」のどちらかに○をつけてください

1. 毎日の生活に満足していますか

1. はい                      2. いいえ

2. 毎日が退屈だと思ふことが多いですか

1. はい                      2. いいえ

3. 外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思ひますか

1. はい                      2. いいえ

4. 生きていても仕方がないと思ふ気持ちになることがありますか

1. はい                      2. いいえ

5. 自分が無力だと思ふことが多いですか

1. はい                      2. いいえ

F 保健福祉サービスについておうかがいします

1. 健康診査はどのくらいの間隔で受けられていますか。あてはまるものに○をつけてください

1. 毎年                      2. 2～3年に1回程度                      3. まったく受診しない

2. 介護保険サービスの内容についてどの程度ご存知ですか

1. よく知っている                      2. まあまあ知っている  
3. ほとんど知らない                      4. まったく知らない

3. 現在、利用している「介護保険サービス」についてあてはまるものに○をつけてください《あてはまるものすべてに○》

1. 訪問介護（ホームヘルプサービス）
2. 訪問入浴介護
3. 訪問看護
4. 訪問リハビリテーション
5. 通所介護（デイサービス）
6. 通所リハビリテーション（デイケア）
7. ベッドのレンタル
8. 車椅子（電動含む）のレンタル
9. その他（ ）のレンタル
10. 短期入所生活（療養）介護（ショートステイ）
11. ポータブルトイレの購入
12. 入浴関連用具の購入（シャワーベンチなど）
13. その他（ ）の購入
14. 住宅改修（手すり、段差の解消など）
15. 有料老人ホーム
16. グループホーム
17. 特別養護老人ホーム
18. 老人保健施設
19. 介護療養型医療施設
20. 全く知らなかったので利用していない
21. 必要性がないので利用していない

4. その他の利用しているサービスについてあてはまるものに○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

—各市町村独自の名称にて調査—

5. あればいいと思うサービスについてあてはまるものに○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

—各市町村独自の名称にて調査—

6. ○○市町村の保健福祉サービスへのご意見等ございましたらご記入ください

最後までご回答いただきありがとうございました

## 第二部：研究成果に関するもの

### 1. 研究発表

#### 1) 論文発表

##### (1) 原著論文

- i 和泉京子、阿曾洋子、山本美輪、福島俊也：「軽度要介護認定」高齢者のうつに関連する要因，老年社会科学，28 巻 4 号，476 頁～486 頁，2007
- ii 和泉京子、阿曾洋子、山本美輪：「軽度要介護認定」高齢者の要介護度の推移の状況とその要因，老年社会科学，29 巻 4 号，471 頁～484 頁，2008

#### 2) 研究発表

##### (1) シンポジウム発表

- i シンポジウム「文化的差異への鋭敏性をいかに育むか」，  
和泉京子，阿曾洋子：Physical, Psychological and Social Factors Relating to Depression in Advanced Age Person with Lower Care Levels in Long-term Care (Nursing-care) Insurance in Japan: 12-month Follow-up Research: 日本における介護保険「軽度認定」高齢者のうつに関連する身体・心理・社会的要因—12 ヶ月の追跡研究から—，大阪府立大学国際シンポジウム，2006
- ii シンポジウム「セルフネグレクトを予防するには」，  
和泉京子：大阪府下の要支援・要介護 1 高齢者 7,600 件の実態調査からみえてきたもの，第 3 回高齢者虐待防止学会大阪大会抄録集，60-63 頁，2006

##### (2) 学会発表

- i 山本美輪、和泉京子、阿曾洋子：介護保険における「要支援」・「要介護 1」の後期高齢者の ADL、IADL の実態，第 25 回日本看護科学学会学術集会講演集，250 頁，2005
- ii 和泉京子、山本美輪、阿曾洋子：介護保険における「要支援」・「要介護 1」の後期高齢者の心理状況の実態，第 25 回日本看護科学学会学術集会講演集，251 頁，2005
- iii Kyoko Izumi, Yoko Aso : Depression among Infirm Seniors in Japan , The 9<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholar, 153 p, 2006
- iv 和泉京子、山本美輪、阿曾洋子：在宅高齢者における要介護認定「軽度認定者」の転倒に関連する要因，第 26 回日本看護科学学会学術集会講演集，182 頁，2006
- v Kyoko IZUMI, Yoko ASO : Factors Related to Depression among Infirm Elderly Women in Japan, International Council on Women's Health Issues, p72-73, 2006
- vi 和泉京子、山本美輪、阿曾洋子、福島俊也：在宅高齢者における要介護認定「軽度認定者」の外出頻度に関連する要因，第 65 回日本公衆衛生学会総会抄録集，770 頁，2006
- vii 和泉京子、山本美輪、阿曾洋子：介護保険における「要支援」・「要介護 1」認定者の排泄の失敗に関する研究，日本地域看護学会第 9 回学術集会，123 頁，2007

- viii Kyoko IZUMI, Yoko ASO : Physical, Psychological and Social Factors Associated with the Degree of Assistance Required during Daily Life by Frail Elderly Individuals in Japan: A 12-Month Follow-up Study, ICN's International Conference 2007, p29, 2007
- ix 和泉京子、山本美輪、阿曾洋子 : 「軽度要介護認定」高齢者の要介護度の推移の状況とその要因, 第 49 回日本老年社会科学大会抄録集, 294 頁, 2007
- x 和泉京子、山本美輪、阿曾洋子 : 介護保険における「軽度認定者」の排泄の失敗が 1 年後の要介護度の推移等に及ぼす影響, 日本地域看護学会第 10 回学術集会, 130 頁, 2007
- x i Kyoko IZUMI, Yoko ASO : Factors related to the homebound of frail elderly people in Japan : Study with 12 month follow-up, 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics , p337-338, 2007
- x ii 和泉京子、阿曾洋子 : 介護保険における「軽度認定者」の 1 年後の要介護度別にみた重度化の要因, 第 66 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 501-502 頁, 2007
- x iii Kyoko IZUMI, Yoko ASO, miwa YAMAMOTO : Factors related to care level after 1 year for infirm elderly individuals in Long-term Care Insurance in Japan, according to the type of family structure, The 1st KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, p154, 2007
- x iv miwa YAMAMOTO, Kyoko IZUMI, Yoko ASO : Relationship Between Cognition and Activities of Daily Living in Elderly Women with Mild Cognitive Impairment, The 1st KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, p149, 2007
- x v 和泉京子、山本美輪、阿曾洋子 : 介護保険における「軽度認定者」の転倒が 1 年後の要介護度の推移等に及ぼす影響, 第 27 回日本看護科学学会学術集会講演集, 399 頁, 2007

### (3) その他の発表

- i 和泉京子 : いつまでも生き活きと！～介護予防のお話～, A市市民大学, 2007

## Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

### 1. 原著論文

i 和泉京子、阿曾洋子、山本美輪、福島俊也：「軽度要介護認定」高齢者のうつに関連する要因，老年社会科学，28 卷 4 号，476 頁～486 頁，2007

ii 和泉京子、阿曾洋子、山本美輪：「軽度要介護認定」高齢者の要介護度の推移の状況とその要因，老年社会科学，29 卷 4 号，471 頁～484 頁，2008

## 「軽度要介護認定」高齢者の うつに関連する要因

和泉京子\*1, 阿曾洋子\*2, 山本美輪\*3, 福島俊也\*4

### 抄録 ●

本研究の目的は、在宅の軽度要介護認定高齢者の抑うつに関連する要因を明らかにし、うつ予防の示唆を得ることである。2004年度の要支援者3,135人と要介護1者2,697人の計5,832人について分析を行った。「うつ傾向」の者は、要支援者の59.6%、要介護1者の73.1%を占めており、要支援者と要介護1者の間には有意差があった。基本属性、身体・心理・社会的項目について単変量の解析より、「うつ傾向」と有意であった項目について、多重ロジスティック回帰分析を行った。要支援者および要介護1者共に、排泄の失敗あり、咀嚼能力なし、主観的健康感の非健康、生きがいなし、趣味なし、地域での活動参加なしが「うつ傾向」の関連要因であった。要支援者では、女性、外出範囲の敷地内、要介護1者では、ひとり暮らし、歩行の介助、外出頻度の1週間に1回未満も「うつ傾向」の関連要因であった。在宅の軽度要介護認定高齢者の「うつ傾向」を予防するためには、身体・心理・社会的側面のすべてを考慮した支援の必要性が示唆された。

Key words : 在宅高齢者, うつ, 軽度要介護認定, 介護予防, 多重ロジスティック回帰分析

老年社会科学, 28 (4): 476 - 486, 2007

### I. はじめに

うつは、認知症と並び高齢者の主要な精神疾患のひとつであり、生涯有病率は、男性では5～10%、女性では10～20%といわれている<sup>1)</sup>。また、高齢者における自殺の原因のひとつとなっており<sup>1)</sup>、地域在住高齢者の自殺念慮に関するコホート研究では、男女共にうつ症状が自殺念慮の予知因子であると報告されている<sup>2)</sup>。

高齢者にとってうつは深刻な問題であり、公衆衛生上の重要度も優先度も高い疾患である<sup>3)</sup>。

一方、わが国における高齢者へのうつ予防の施策としては、特定高齢者を対象とした地域支援事業に

うつ予防・支援が含まれ介護予防の重要な柱となっている。2006年度の介護保険制度改正の背景として、要支援認定者（以下、要支援者）、要介護1認定者（以下、要介護1者）の増加および悪化率が高かったことなどが挙げられており<sup>4)</sup>、これらの軽度認定者が特定高齢者と並び介護予防のターゲットとなっている。しかし、軽度認定者を対象にした新予防給付にはうつ予防・支援は含まれていない。

軽度認定者のうつに関しては、介護保険未申請で生存した群と軽度認定者となった群の抑うつの割合の比較を行った研究<sup>5)</sup>において、介護保険未申請で生存した群の抑うつ傾向ありの割合は2割弱であったのに対し、軽度認定者となった群は3割強であったと報告されている。これより、うつは介護保険未申請の高齢者に比べ軽度認定者に多いといえる。

地域在住高齢者のうつの要因としては、Cole<sup>6)</sup>らのレビュー論文によると、不幸な出来事、睡眠障

受付日：2006.7.20 / 受理日：2006.12.4

\*1 Kyoko Izumi : 大阪府立大学看護学部

\*2 Yoko Aso : 大阪大学大学院医学系研究科

\*3 Miwa Yamamoto : 明治鍼灸大学看護学部

\*4 Toshiya Hukushima : 大阪府健康福祉部地域保健福祉室

\*1 〒583-8555 大阪府羽曳野市はびきの3-7-30



害、身体障害、うつ既往、女性が複数の縦断研究から明らかになっている。わが国においても地域在住高齢者への横断研究により、うつの要因としては低い健康度自己評価や家族との会話の機会が少ないこと<sup>7)</sup>、ソーシャルネットワークの授受が少ないこと<sup>8)</sup>が挙げられている。しかし、これらの先行研究の対象は、介護保険制度にあてはめると未申請の高齢者のみならず軽度認定者をはじめ要介護認定者も含むため、軽度認定者のうつ予防には、独自のうつの要因を明らかにする必要があると考える。

本研究においては、介護予防の対象である軽度認定者のうつの要因を明らかにするため、介護予防に関連する項目である転倒経験<sup>9)</sup>、排泄の失敗<sup>10)</sup>、咀嚼能力<sup>11)</sup>、主観的健康感<sup>12)</sup>、生きがい<sup>13)</sup>や趣味、社会参加<sup>14)</sup>、外出頻度や外出範囲<sup>15)</sup>などを調査項目に含め検討することとした。

本研究の目的は、2004年度に介護保険制度で要支援および要介護1と認定された65歳以上の在宅高齢者のうつの実態およびうつに関連する要因を明らかにし、うつ予防の示唆を得ることである。

## Ⅱ. 方 法

### 1. 対象および方法

対象：2004年11月に大阪府下44市町村（2004年11月現在）の介護保険主管課へ調査依頼し、承諾を得た22市町村の要介護認定において2004年8～12月に要支援と認定された5,130人、要介護1と認定された5,734人の合計10,864人。

方法：2004年12月～2005年3月に調査票を送付、回収した。

### 2. 調査内容

うつに関しては、高齢者抑うつ尺度短縮版（Geriatric Depression Scale 短縮版；GDS5）を用いた。GDSは、高齢者のうつのアセスメントに用いられる代表的な尺度である。GDSの30項目を15項目に短縮したGDS15がよく用いられるが、GDS15の簡易版であるGDS5についても、カットオフ値を1/2とした場合、GDS15の感度、特異度、正

診度と同等であることが明らかにされている<sup>1)</sup>。うつ傾向とうつ状態を判別するにはGDS15が必要であるが、本研究では、うつ傾向を有する者はうつ病者の予備軍であると考え、簡易版であるGDS5を用いた。

#### 1) 基本属性

性、年齢、家族構成。

#### 2) 身体的項目

現在治療中の疾患（高血圧、心疾患、脳血管疾患、関節痛や神経痛）の有無、歩行（「ひとりで行ける」を自立、「介助が必要」を介助と分類した）、排尿・排便の失敗（以下、排泄の失敗）の有無、咀嚼能力、過去1年間の転倒経験の有無。

#### 3) 心理的項目

高齢者抑うつ尺度、主観的健康感、生きがいの有無。

#### 4) 社会的項目

趣味の有無、地域での活動への参加の有無、外出頻度、外出範囲、介護保険サービス利用の有無。

### 3. 分析方法

#### 1) 調査項目のカテゴリー化

① GDS5：項目1に「いいえ」、項目2～5に「はい」と回答した場合に1点を加算し、5点満点中2点以上の場合をうつ傾向を疑う<sup>1)</sup>。本研究では、2点以上をうつ傾向群とし、2点未満を非うつ傾向群とした。

② 家族構成：「ひとり暮らし」をひとり暮らし群とし、「夫婦ふたり」「子どもやその家族との同居」「子どもと孫やそれらの家族との同居」「その他」をひとり暮らし以外群とした。

③ 咀嚼能力：「あまりかめない」「ほとんどまたはまったくかめない」をなし群とし、「何でもかめる」「たいていのものはかめる」をあり群とした。

④ 主観的健康感：「あまり健康ではない」「健康ではない」を非健康群とし、「非常に健康」「まあ健康」を健康群とした。

⑤ 外出頻度：「ほとんど外出しない」を1週間に1回未満群とし、「毎日1回以上」「2～3日に1日

程度」「1週間に1回程度」を1週間に1回以上群とした。

⑥外出範囲：「ほとんど家のなか」「自宅の敷地内」を敷地内群，「隣近所」「徒歩で行ける範囲」「乗り物を利用して行く場所」を敷地外群とした。

## 2) 解析方法

要支援者と要介護1者の2群間における基本属性およびうつ傾向の割合の比較を行った。カテゴリ変数については $\chi^2$ 検定を行い、年齢についての要介護度間の平均値の差の分析はt検定を行った。

次に、要支援者および要介護1者に関する、調査項目ごとのうつ傾向の割合の比較は $\chi^2$ 検定を行った。

うつ傾向との関連をみるために、うつ傾向の有無を従属変数とし、 $\chi^2$ 検定で有意であったすべての項目および性別、年齢区分、家族構成を独立変数として投入し、ステップワイズの変数増減法にて多重ロジスティック回帰分析を行った。その際、要支援者と要介護1者の差異についても検討するため、要支援者もしくは要介護1者の一方のみ $\chi^2$ 検定で有意であった項目についても投入し、要支援者と要介護1者共に同じ変数を独立変数とした。解析には、統計パッケージSPSS Ver.11を用いた。

## 4. 倫理的配慮

大阪大学倫理審査委員会で承認を得た。書面に、研究の主旨、匿名性、人権擁護、結果の公表、回答の有無による不利益がない旨を明記した。回答をもって同意とした。

## Ⅲ. 結 果

調査票回収数は、要支援者が3,878人(回収率75.6%)、要介護1者が3,724人(回収率65.0%)で、合計7,602人(回収率70.0%)であった。これらの回収数のうち、基本属性の未記入者、調査時に65歳未満の者および年齢の未回答者、施設等へ入所している者、在宅か入所かが不明な者、高齢者抑うつ尺度の全5項目に1つでも欠損値のあった者を除外

し、要支援者は3,135人(80.8%)、要介護1者では2,697人(72.4%)の合計5,832人(76.7%)について分析を行った。

### 1. 基本属性(表1)

性別は、要支援者では男性が27.6%、女性が72.4%であり、要介護1者では男性が28.6%、女性が71.4%であった。要支援者と要介護1者の間に有意差はみられなかった。

平均年齢は、要支援者は79.1±6.5歳、要介護者は80.0±7.0歳であり、要介護1者のほうが有意に高かった( $p \leq 0.001$ )。65歳以上75歳未満の前期高齢者(以下、前期高齢者)・75歳以上の後期高齢者(以下、後期高齢者)別では、要支援者では前期高齢者が25.8%、後期高齢者が74.2%であり、要介護1者では前期高齢者が23.9%、後期高齢者が76.1%で、要支援者と要介護1者の間に有意差はみられなかった。家族構成では、要支援者ではひとり暮らし群が36.8%、ひとり暮らし以外群が63.2%であり、要介護1者ではひとり暮らし群が28.0%、ひとり暮らし以外群が72.0%で、要支援者のほうが有意にひとり暮らし群の占める割合が多かった( $p \leq 0.001$ )。

### 2. うつ傾向群の割合(表2)

「うつ傾向群」は、要支援者では59.6%、要介護1者では73.1%を占めており、要介護1者のほうが要支援者に比べ有意にうつ傾向群の占める割合が多かった( $p \leq 0.001$ )。

表1 基本属性 n=5,832

項目	要支援	要介護1	p値
性別 男性	866 (27.6)	770 (28.6)	n.s.
性別 女性	2,269 (72.4)	1,927 (71.4)	
年齢 平均±SD	79.1±6.5	80.0±7.0	0.000
年齢 前期高齢者	808 (25.8)	644 (23.9)	n.s.
年齢 区分 後期高齢者	2,327 (74.2)	2,053 (76.1)	
家族 ひとり暮らし群	1,155 (36.8)	756 (28.0)	0.000
家族 構成 ひとり暮らし以外群	1,980 (63.2)	1,941 (72.0)	

注1: 数字は人数, ( )内は%を表す

注2: n.s.:not significant

3. 基本属性別のうつ傾向群の割合 (表3)

性別では、要支援者および要介護1者共に男女間とうつ傾向との関連に有意な差はみられなかった。年齢区分では、要介護1者については、前期高齢者の70.0%、後期高齢者の74.0%がうつ傾向群であり、後期高齢者のほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p=0.047$ )。家族構成では、要介護1者については、うつ傾向群はひとり暮らし群が76.1%、ひとり暮らし以外群が71.9%であり、ひとり暮らし群のほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p=0.030$ )。

基本属性のいずれもすべてのカテゴリーにおいて、要支援者に比べ要介護1者のほうがうつ傾向群の占める割合が多かった。

4. 身体的項目別のうつ傾向群の割合 (表4)

1) 治療中の疾患

心疾患では、要支援者についてのみ、心疾患ありのほうが有意にうつ傾向群が多かった ( $p=0.004$ )。脳血管疾患でも、要支援者についてのみ、脳血管疾患ありのほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p=0.032$ )。

要支援者および要介護1者共に高血圧および関

節痛や神経痛の有無とうつ傾向との関連に有意な差はみられなかった。

2) ADL

歩行では、要支援者については、介助の73.0%、自立の58.1%、要介護1者については、介助の82.6%、自立の70.2%がうつ傾向群であり、要支援者および要介護1者共に介助のほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p \leq 0.001$ )。排尿・排便の失敗では、要支援者については、失敗ありの72.2%、失敗なしの52.8%、要介護1者については、失敗ありの79.9%、失敗なしの66.8%がうつ傾向群であり、要支援者および要介護1者共に失敗ありのほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p \leq 0.001$ )。

3) 咀嚼能力

要支援者については、なし群の72.1%、あり群の54.0%、要介護1者については、なし群の82.2%、あり群の67.5%がうつ傾向群であり、要支援者および要介護1者共になし群のほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p \leq 0.001$ )。

4) 過去1年間の転倒経験

要支援者については、ありの64.6%、なしの54.9%、要介護1者については、ありの76.9%、なしの68.3%がうつ傾向群であり、要支援者および要介護1者共にありのほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p \leq 0.001$ )。

身体的項目のいずれもすべてのカテゴリーにおい

表2 要介護度別のうつ傾向群の割合  $n=5,832$

項目	うつ傾向群	非うつ傾向群	p値
要支援	1,870 (59.6)	1,265 (40.4)	0.000
要介護1	1,971 (73.1)	726 (26.9)	

数字は人数、( )内は%を表す

表3 基本属性別のうつ傾向群の割合

項目	要支援			要介護1			
	n(人)	うつ傾向群 (%)	p値	n(人)	うつ傾向群 (%)	p値	
性別	男性	866	58.9	n.s.	770	72.6	n.s.
	女性	2,269	59.9		1,927	73.3	
年齢区分	前期高齢者	808	59.0	n.s.	644	70.0	0.047
	後期高齢者	2,327	59.9		2,053	74.0	
家族構成	ひとり暮らし群	1,155	60.3	n.s.	756	76.1	0.030
	ひとり暮らし以外群	1,980	59.2		1,941	71.9	

n.s.: not significant

表 4 身体的項目別のうつ傾向群の割合

項目	要支援			要介護1			
	n(人)	うつ傾向群 (%)	p 値	n(人)	うつ傾向群 (%)	p 値	
治療中の疾患							
高血圧	あり	1,381	60.0	n.s.	1,140	74.3	n.s.
	なし	1,754	59.4		1,557	72.2	
心疾患	あり	754	64.2	0.004	691	74.5	n.s.
	なし	2,381	58.2		2,006	72.6	
脳血管疾患	あり	307	65.5	0.032	393	76.6	n.s.
	なし	2,828	59.0		2,304	72.5	
関節痛や神経痛	あり	1,497	60.3	n.s.	1,319	73.8	n.s.
	なし	1,638	59.1		1,378	72.4	
ADL							
歩行	介助	244	73.0	0.000	616	82.6	0.000
	自立	2,575	58.1		1,838	70.2	
排泄の失敗	あり	1,043	72.2	0.000	1,288	79.9	0.000
	なし	1,942	52.8		1,319	66.8	
咀嚼能力	なし群	953	72.1	0.000	1,018	82.2	0.000
	あり群	2,053	54.0		1,606	67.5	
過去1年間の転倒経験	あり	1,509	64.6	0.000	1,517	76.9	0.000
	なし	1,524	54.9		1,114	68.3	

n.s.: not significant

表 5 心理的項目別のうつ傾向群の割合

項目	要支援			要介護1			
	n(人)	うつ傾向群 (%)	p 値	n(人)	うつ傾向群 (%)	p 値	
主観的健康感	非健康群	2,014	67.8	0.000	1,854	79.0	0.000
	健康群	1,081	45.0		803	60.6	
生きがい	なし	1,315	81.9	0.000	1,412	87.7	0.000
	あり	1,408	39.6		961	53.7	

て、要支援者に比べ要介護1者のほうがうつ傾向群の占める割合が多かった。

#### 5. 心理的項目別のうつ傾向群の割合 (表 5)

主観的健康感では、要支援者については、非健康群の 67.8%、健康群の 45.0%、要介護1者については、非健康群の 79.0%、健康群の 60.6%がうつ傾向群であり、要支援者および要介護1者共に非健康群のほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p \leq 0.001$ )。生きがいでは、要支援者については、なしの 81.9%、ありの 39.6%、要介護1者

については、なしの 87.7%、ありの 53.7%がうつ傾向群であり、要支援者および要介護1者共になしのほうが有意にうつ傾向群の占める割合が多かった ( $p \leq 0.001$ )。

心理的項目のいずれもすべてのカテゴリーにおいて、要支援者に比べ要介護1者のほうがうつ傾向群の占める割合が多かった。

#### 6. 社会的項目別のうつ傾向群の割合 (表 6)

##### 1) 趣味

要支援者については、なしの 75.2%、ありの